

# 教点連ニュース 平成 23 年度 第 2 号 No. 17

平成 23 年 9 月 8 日

## 【平成 23 年度第 2 回セミナーのご案内】

《セミナー》

日時：平成 23 年 11 月 23 日（水・祝） 13 時～16 時半（12 時半より受付）

場所：日本ライトハウス情報文化センター4 階会議室

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2

電話 06-6441-0015（代表）

（大阪市営地下鉄四ツ橋線「肥後橋駅」2 番出口からすぐ）

テーマ：「なぜ点字教科書は必要なのか」

内容：

12:30 受付

13:00～ 田中徹二理事長挨拶

13:10～14:50 大阪府豊中市のケース発表

発表者：大上直子氏（豊中市立蛍池小学校・教諭）

蓮井庸介氏（同校・教諭）

三上洋氏（豊中市子供支援員・当会監事）

辻岡均氏（大阪市立視覚特別支援学校・教諭）、

14:50 休憩

15:00～16:00 「点字学習指導の有用性」

長岡英司氏（筑波技術大学教授・当会理事）

16:00～16:30 質疑応答

16:30 閉会挨拶 加藤俊和理事

定員：70 名

参加費：会員 500 円、非会員 1,000 円

申し込み：氏名、所属団体、連絡先（電話番号、もしくはメールアドレス）を明記のうえ、下記の方へお申し込みください。なお、定員になり次第締め切らせていただきます。

申し込み先：日本ライトハウス情報文化センター・奥野

FAX 06-6441-0095

E-Mail tenji@iccb.jp

## 【平成 23 年度第 1 回セミナーのご報告】

去る 6 月 11 日（土）、日本点字図書館において、当会の今年度第 1 回セミナーが行われました。

今回のセミナーでは、「視覚障害に配慮した点字教科書のあり方」をテーマに、今年度改訂となった小学校教科書について言及し、特別支援学校用と通常学校用の教科書の各製作・編集に携わっておられる方から、製作する上で工夫した点や配慮した点などを報告していた

いただきました。さらに、参加者にも実際にそれらの教科書に触れてもらいました。科目は、1年生の算数と、3・4年用の社会を取り上げました。

算数については、まず、大内進氏（特別支援教育総合研究所）よりお話いただきました。1年生は図を認識する上で重要な発達段階であるため、それを考慮した編集・製作が必要です。その一環として特別支援学校用の教科書に導入教材として図の触読用練習教材が製作されており、当日は会場で展示され多くの参加者の関心を集めました。丸、三角、四角などの図形や、線のたどり方を練習するページなどがあり、図を読み解く力を付けるには、非常に有効な教材です。

一方、寺田裕子氏（点訳ボランティア連絡会）より、通常学校用の算数教科書製作においては、学校と連絡を密に取りながら、より分かりやすい教科書に近づけるよう製作に取り組んでいるという報告がありました。製作に際しては、盲学校用編集資料や学習指導要領などを参考にしながら点訳を行っているというお話もあり、きめ細かな取り組みをされていることが伺えました。

社会の教科書では、地図の作り方やグラフの処理に関することが発表の論点となりました。青松利明氏（筑波大学附属視覚特別支援学校）からは、グラフを点訳する際、必ずそのグラフは、グラフの形状のまま必要なものなのか、それとも数表で表しても良いものなのかを丁寧に見極めながら処理しています。またレイアウトの工夫点として、地図やグラフと、それらに付ける凡例を見開きに配置しています。こうすることで、ページをめくる動きを極力減らし、凡例と地図とグラフを対応させながら見られるように配慮されています。

続いて田中伸子氏（日本ライトハウス情報文化センター・ボランティア）からは、墨字では見開きページで書かれているイラストや日本列島の図をどのように点訳したかという報告がありました。分割可能な図は点字で数ページにわたって掲載したり、部分図だけでは全体の形をなかなか認識できないものは点字用紙4枚を張り合わせ、教科書に添付したという工夫事例が紹介されました。

その後、会場で質疑応答とともに、教科書もヴィジュアル化が進む中で、視覚障害児童・生徒にとって分かりやすい教科書とは何なのか、意見が交わされました。

- ・教科書の中に掲載する地図は北海道や沖縄を破線の中に入れたり、点字用紙を2枚つなぎにするなど工夫しているが、ぜひ、基本地図帳で確認してほしい。

- ・点訳した教科書がどのように活用されているのか迷いながらも原本に忠実に点訳している。クラスの中で使用する資料になればと思いながら点訳している。

- ・教える側の配慮はどのようにされているのか？現場の教員の指導方法を確認した上で教科書も作るべきではないか？

- ・著作本（特別支援学校用教科書）の製作でどのような点に意識しているか？

- 図を理解するとき、図全体を把握できるか、重要な要素を理解できるか、要素間の構造が繋げられるか、これらのことが確認できて初めて図が認識できる。小学校算数では原本内容に合わせつつ触読の視点も加えている。

- 筆算の仕方、珠算など計算の仕方についても視覚活用からずれないように原本に副う形で作っているが、かえって中途半端なものになっている。教科書自体を視覚に囚われないユニバーサルデザインなものにしてもらいたい。

- ・通常学校ではどれくらいインクルーシブ教育になっているのか？教科書に配慮して作ることは難しく、体験重視を念頭において進めることが重要だと思う。

- ・法的にインクルーシブ教育が認められており、今度は子供たちに適した教材を考えるべきだと思う。

当日、発表、発言いただいた皆様、ほんとうにありがとうございました。

次回のセミナーは秋に大阪で開催する予定です。

## 【平成 22 年度総会】

- (1) 平成 22 年度事業報告および決算の承認
  - (2) 平成 22 年度監査報告
  - (3) 平成 23 年度事業計画案および予算案の承認
- 以上の議案について審議し、全員賛成で承認された。

なお、平成 22 年度決算は、以下の通り。

|        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 収入総額   | 650,248 円                           |
| 支出総額   | 584,589 円 (パンフレット作成費用・政令都市実態調査費用含む) |
| 次年度繰越額 | 65,659 円                            |

## 【平成 23 年度第 1 回理事会記録】

日時：平成 23 年 6 月 11 日（土）12 時～13 時

場所：日本点字図書館会議室

内容：

1. 原田良實前理事の任期満了にともない、新しく松崎直美理事（名古屋ライトハウス 名古屋盲人情報文化センター）が加わり、理事の自己紹介を行った。
2. 教科書の重複製作を避けるため、ホームページにすでに製作されている教科書のリストを掲載できないか？→23 年度に製作された教科書について、ホームページにアップできるかどうか検討する。⇒これに関しましてはすでにアップ済です。
3. マニュアル作成に向けて、助成金の申請を行うことを確認した。
4. 次回の理事会の日程について確認した。

## 【平成 23 年度第 2 回理事会記録】

日時 平成 23 年 8 月 3 日（水）

場所：日本点字図書館会議室

内容：

1. 秋のセミナーについて ⇒ 上記のとおり
2. マニュアル作成のための助成金申請について  
洲崎福祉財団に 1,500,000 円を申請している。8 月末に合否の連絡が入る予定。  
助成金申請が通った場合は、長岡理事、牟田口理事の協力の下、編集委員の人選を行う。マニュアル作成の際は点字版製作も検討する。  
※なお、助成金申請をしておりました洲崎福祉財団については、残念ながら 8 月末に不合格とのご連絡がありました。今後も引き続き助成金申請を行ってまいりますので、そのような情報がありましたら事務局までお知らせください。
3. 昨年度製作した、点字教科書の普及・促進用パンフレットについて  
現在、パンフレットの残部は 2,300 部。  
関連のある各団体の大会や、問い合わせのあった方へ積極的に配布していく。  
また各自パンフレットが必要な場合は適宜事務局へ問い合わせてもらい、事務局から送るようにする。

#### 4. その他

①盲学校用教科書で、小学校 1 年の国語に点字の読み方、同じく算数には線の辿り方、中学校 1 年の英語には略字の教本が含まれており、その教本を通常学校の視覚障害児童・生徒にも行き渡るよう、意見交換会で要望してほしい。

→次回の意見交換会の要望内容に入れる予定。

また、地図帳についても同様に要望してほしい。

\* 次回のセミナーで、これらの地図帳、教本を展示してはどうか。

②教科書の重複製作についてできるだけ重複製作を避けるためにホームページに教科書リストを掲載してほしい。

→これまでのアンケート内容（21、22 年度製作の教科書）の情報を当会のホームページに掲載する。

また、会員のメーリングリストをうまく活用し重複製作にならないように情報交換を行なう。さらに会員にはニュースでリストを今年度も配布する。

事務局へ問い合わせがあったものについては、その都度対応する。

## 【教点連 ボランティア団体のご紹介】

点訳ボランティアグループ連絡会（兵庫県）

（点V連 寺田）

点訳ボランティアグループ連絡会は、1983年12月兵庫県下の点訳グループが集まり、お互いの情報交換や点訳技術の向上を図り、視覚障害者のニーズに、より適切に responding していく事を目的に結成されました。2013年には30周年を迎えます。

現在、44グループ（約800名）が加盟、事務所を神戸市中央区におき、16名のスタッフが、毎週火・金曜に交代で点訳にかかわる業務及び事務処理、各種連絡を行っています。また、年間の行事や年3回発行の「点V連ニュース」は、各グループより選ばれた幹事（任期2年）が、スタッフとともに企画立案し、実行しています。そのすべてをボランティアで運営しています。

加盟各グループは、それぞれの地域で必要とされる活動に加えて、ユーザーより点V連に依頼のあった点訳の分担、サピエ図書館登録文書の作成など、さまざまな点訳活動にとりこんでいます。

統合教育の教科書は、点字盤による手作業の頃より手がけてきました。2005年には「教科書点訳委員会」を発足させ、現在は10グループが教科書点訳にかかわっています。教科書は、通常10月からの半年で作成し、3月末には納入しています。委員会発足のきっかけとなった小学生は、今年3月卒業され、教科書点訳委員会も休止かと思われましたが、新たに今年度、小学1年生、3年生の教科書の依頼を受け、継続となりました。教科書はどんどん視覚的になり、どの科目も工夫が要求されます。今後、教科書点訳委員のスキルアップをどのようにしていくかが課題となっています。

「ユーザーと共に歩む点V連」は、わたしたちの活動の指針として掲げているものですが、これからも教科書を含め、ユーザーからの依頼に出来る限り応えていきたいと思っています。

## 【事務局からのお知らせ】

・昨年度、パンフレット製作委員会が中心となって当会の紹介を含めた点字教科書に関するパンフレットを作成しました。すでに会員の皆様にはお送りしているかと思いますが、さらに多くの方に点字教科書のことをご理解いただけるよう、関心をお持ちの方や学校関係者等にもお配りしています。皆様の方でも点字教科書のことを知っていただくためにパンフレットがご入用の場合は事務局までお知らせください。

・今号の「教点連ニュース」といっしょに、当会監事の牟田口先生が実施してくださっている平成23年度点字教科書製作のアンケートを会員の方にお送りしております。平成23年度の小学校教科書に続き、24年度は中学校教科書が改定となります。できるだけ重複製作を避けるため、当会では皆様と情報共有を図っていきたいと思っています。つきましては、「この教科書はどこかで作っていないだろうか」など製作状況に関するご質問がありましたら、メンバーリストでお尋ねいただくか、直接事務局までお問い合わせください。ご協力をよろしくお願いいたします。

発行日：平成23年9月8日

発行所：NPO 法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

ホームページ：<http://kyotenren.web.fc2.com/>

発行人：田中徹二

連絡先：（社福）日本点字図書館 担当：田中・松本

〒169-8586 新宿区高田馬場1-23-4

Tel：(03)3209-0241 Fax：(03)3204-5641

E-mail：[matsumotom@nittento.or.jp](mailto:matsumotom@nittento.or.jp)

振込口座番号：0180-7-262151